



園だより 2月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和7年1月31日発行



ラディッシュ

園長 佐藤 淳穂

いちご組でラディッシュの収穫をしました。11月に子どもたちが撒いた種は、ゴマの粒よりもずっと小さなものでした。かわいい芽が出てからずいぶんと時間が経ちました。少しずつ葉を広げるラディッシュにじょうろで水やりをする子どもたちの姿をよく見かけていました。

さあ、土の中からぶっくりとした赤いものが見えるようになりました。これは食べ頃です。ところが、よく見ると、うまく膨らんでいないものもあります。間引きがうまくいっていなかったようでした。いちご組の子ども20人が一人一株を抜くとなると、丸いラディッシュは数が足りません。

畑の前にいちご組が集まりました。「ラディッシュできてるかな」担任はラディッシュを抜いてみせました。「わあ!」と歓声が上がりました。担任が持ち上げたのはヒョロヒョロとやせたラディッシュでした。しかし、それは鮮やかな赤い色で、私の心配をよそに、子どもたちの目は驚きとうれしさに輝いていました。

いよいよ子どもたちの抜く番です。最初にAさんが抜きました。「うおおー!」Aさんのラディッシュは線香花火の蕾のように小さなものでしたが、プランターを取り囲んで見守っていた子どもたちは大喜びでした。自分が抜いたかのようにピョンピョンと飛び跳ねている子もいました。大きくもなく丸くなくても長い時間をかけて自分たちで育てたラディッシュは愛おしいようで、友達が抜く様子をじっと見たり、抜いた株を互いに見合ったりしていました。

収穫を終えると、担任がたらいに水を張りました。思わぬ水の登場に、子どもたちはさらに大興奮。次々に自分のラディッシュをたらいに入れて洗っていました。水に濡れたラディッシュは赤い色が際立ち、艶やかに光りました。

その後、保育室ではラディッシュの絵を描くことになりました。それぞれのテーブルの真ん中には、収穫したラディッシュが置かれています。画用紙が配られると、子どもたちは小走りでロッカーからクレパスを持ってきて、何の迷いもなく描き始めました。赤いクレパスでぐるぐると大きな丸を描くBさん、葉の付いたラディッシュを描いたCさん、ラディッシュを描いた後に茶色で土をかぶせたDさん、水色を塗り込んでいるDさんは空ではなく「水」と言っています。洗ったことが印象的だったのでしょうか。保育室にはいろいろなラディッシュの絵が飾られ、楽しい畑になりました。

心が動いたら誰かに伝えたくなり、表現したくなる…今月は作品展があります。子どもたちの世界を堪能するには、見る側の想像力が試されます。小さなアーティストの作品を通して、きっと、一人一人の、そして学級の成長を感じられることでしょう。